

2020年2月13日

各 位

会 社 名 SAMURAI&J PARTNERS株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 山口 慶一
 コード・上場 4 7 6 4 ・ J A S D A Q
 問 合 せ 先 取締役管理本部長 正司 千晶
 電 話 番 号 0 3 - 5 2 5 9 - 5 3 0 0 (代表)

2019年12月期連結業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

2019年12月期会計年度(2019年2月1日～2019年12月31日)の連結業績につきまして、前期(2018年2月1日～2019年1月31日)実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年12月期会計年度の連結業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 530	百万円 △245	百万円 △247	百万円 △574	円 銭 △17.19
当期実績(B)	827	△270	△248	△303	△8.68
増減額(B-A)	297	△25	△1	270	—

※当連結会計年度は決算期(事業年度末)を1月31日から12月31日に変更しておりますので、当連結会計年度の実績は2019年2月1日から2019年12月31日までの11カ月間の業績数値となっております。なお、対前期増減率の記載は省略しております。

2. 差異の理由

①売上高

連結子会社であるSAMURAI TECHNOLOGY 株式会社を主軸としたITサービス事業において、ミドルウェアソリューションにおける大手自動車メーカーの大型受注やシステム開発ソリューションにおける新元号対応、消費税率変更における特需の発生により売上が好調に推移いたしました。

また、投資銀行事業においても投資有価証券の売却(売上高 298 百万円)やアドバイザー契約の初回報酬(売上高 150 百万円)が売上に貢献し、連結売上高は、前期実績値から 297 百万円増加の 827 百万円となりました。

②営業利益

前述のとおり売上高は増加し、IT サービス事業ではセグメント営業利益 59 百万円と前期実績値から 24 百万円の増益となりましたが、投資銀行事業では事業先行投資のほか、連結子会社である SAMURAI ASSET FINANCE 株式会社において発生した債権取立遅延により、貸倒引当金繰入額 237 百万円を計上したため、前期実績値から 25 百万円減少し、△270 百万円となりました。

③経常利益

営業外収益として、匿名組合投資利益 90 百万円を計上しておりますが、営業利益の減益要因に加えて、営業外費用として支払利息 3 百万円及び有価証券売却損 67 百万円が発生し、前期実績値から 1 百万円減少の△248 百万円となりました。

④親会社株主に帰属する当期純利益

当期は、のれんの減損損失等の大きな損失要因の発生はなく、特別損失として訴訟関連費用 10 百万円の計上に留まったことにより、270 百万円増加の△303 百万円となりました。

以 上